



DOKKYO SAITAMA HIGH SCHOOL

獨協埼玉高等学校

No.

14

2012.8.10



同窓会会報

発行：獨協埼玉高等学校同窓会 発行人：玉山 栄一
〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316
☎048-977-5441 FAX048-977-2031
e-mail: dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp
URL http://www.dokkyo-saitama.com/

同窓会十五周年に寄せて

第4代校長
石井 征次

同窓会が発足して十五周年を迎えるという。

高校の二期生を中心として、同窓会の発足と発展に尽力してくれた諸兄・諸姉に今更ながら衷心からのお礼を申し上げます。

同窓会発足の頃、私は教頭職にあつて、第三代校長

の下、中学校の開設に向けて奔走していた。その頃はまだ五十代前半で、髪こそすでに白かったものの、頑健で元気のいい叔父さんだった。

高校の第一期生はもう四八歳になる。上級生のいないだらう広い校舎の中を我が物顔に飛び回っていた少年達も、もはやいい叔父さんである。

中学の第二期生たちも、多くは大学を卒業して、社会人になつていくものも多いと聞く。まだ幼顔を残したピカピカの中学一年生が入学してきたときの感動は、今も私の胸に残っている。

男子校が始まって、二年後に

は男女共学、そして約二十年を経ての中学校設立と獨協埼玉も変化のある歴史を生きてきた。三十三年前と今とでは、少なくとも校舎や体育館、グラウンド環境などは大きく変わったかもしれない。

でも、変わらないものもある。生徒たちが学校という制約の中ではあるが、可能な限り自由で伸びやかに過ごす学園、そうした獨協埼玉中学・高等学校教育の基本は今も残っている。

この十五年間、幹事として同窓会を支えてくれた諸兄・諸姉はもとより、卒業生のそれぞれが、そうした獨協埼玉教育の中で生きた青春時代を懐かしみ集う場所として、この同窓会がますます充実したものになるようにと、心から願っている。そして、これから果立っていく後輩達にとつても、獨協埼玉での日々が振り返って黄金のような懐かしい日々であるように、学校をサポートする存在としても同窓会への期待は大きい。

こうして、お祝いの言葉を書きながら、君たちの顔が文字通り走馬灯のように浮かんでは消えていく。

君たちのおかげで楽しい職員生活だった。ありがとう。

一歩前へ

会長
玉山 栄一

平成10年に同窓会が発足してから、15年目を迎えることができました。これもひとえに同窓生の皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

母校自体は33年目を迎え、設立と同時に入学した私は、せんげん台の駅から校舎が見えたのを今でも鮮明に覚えております。今では、駅ビルや高層マンションなどですっかり街が変わり、それだけでも月日が経つたんだなあと思ひ深く思っております。

同窓会主催行事の一つ、ホームカミングデーも今年で9年目を迎え、毎年大勢の方に参加していただいております。今後も代々途切れることなく次の学年にバトンを渡していければと思っております。

それから、今年の総会では会則の改正という大変重要な案件がありました。時代のニーズにあった内容に変更できたと思っております。そして、6月の総会におきまして、無事承

認されましたこと、再度皆様にご報告させていただきます。ありがとうございました。

さて、時代のニーズと言いましたが、今まさにこれまで経験しなかったような激変が日本を襲っております。経済だけでなく、社会のしくみまで変えてしまいました。そんな日本もまだ、高度成長の余韻にとどまり浸り、そこから飛び出す事が出来ない。変化恐怖症になつていきます。今は、少しの時間で時代のうねりが大きくなりやすから、気がつくくと世界の潮流から大きく取り残されるでしょう。もう我々は変わらなければいけない時期に来ているのかもしれない。

では、この時代に必要なものは何でしょうか？やはりそれは人間力に他なりません。

獨協学園の祖、天野貞祐先生が仰っております「君達は可能性そのものだ！」この言葉通り自分の可能性に向かって突き進めば自ずと人間力は付いてくるはずですよ。

同窓生の皆さん、勇気を出して一歩前へ出ましょう。大丈夫ですよ！僕達は、可能性そのものだから」

最後になりましたが、皆様の今後一層のご健勝と、益々のご活躍を祈念いたします。

記念の十五周年に寄せて



校長
柳町 道廣

去る六月二十三日、今年も年に一度の同窓会総会とそれに続く懇親会が、本校小ホールにおいて盛大に開催されました。今年は同窓会発足十五周年に当たるということで、例年以上の参加者数でした。加えて、これまで退職された多くの先輩諸氏が参加され、それぞれの近況を語って下さいましたが、皆さん本当にお元気で、獨協埼玉を変わらず愛し続けていただいていること、感謝申し上げます。

特に、三十三年前の獨協埼玉高校開校にご尽力下さった各先生方のご参加。先生は所用で欠席は、獨協学園創立百三十周年を来年に控えた時でもあり、意義深いものでした。記念事業の実行委員会の員として、本校の過去の周年記念誌や写真を調べていた折でもあったので、四氏の開校までの苦労を改めて知ることとなり、これからも本校の教育精神の維持発展に努めることの責任を強く感じております。

最後に、この三月をもって退職された先生と先生に対し、生徒と教職員に代わって心より感謝申し上げます。

退職にあたって

昭和46年に東京の高等学校で理科の教諭として11年間勤務した後、創立3年目、男女1期生が入学してくる年に獨協埼玉高等学校に奉職しました。駒込から西日暮里、北千住で乗換えて、せんげん台へ。各駅ごとにたくさんのお出がけがあります。車窓から見える富士山はとても美しく見えた日は1日幸せな気持ちになります。特に新越谷を過ぎた頃左手に見える富士山が一番好きです。その雄姿も高架になって見ることができましたが、当時の東武伊勢崎線はまだ高架ではなく見えた景色も今とはずいぶん異なっています。台風や大雨が続くと獨協大学の前の川が氾濫し、新田駅はよく水浸しになっていました。松原団地駅前の銀行の天井にはボートがぶら下がっている光景にはびっくりしました。何かあってもなくともよく、草加や北千住あたりで途中下車し多くの先生方と遅くまで熱く語り合い、自分の思いや心配ごと不満などよくぶつけ合っていました。そこから、先生方の考え方、気持ちの整理の仕方などを学び、特に経験談はとても参考になり、アドバイスもよくいただきました。現在ではそのような機会が少なくなりましたが、これはとても残念に思います。先日同窓会が開催され、多くの卒業生となつかしい再開をしました。担任よりも学年主任の期間の方が長かったので顔と名前がなかなか一致しませんでした。会話を交わしていくうちに一人一人思い出すことができたその当時の自分に帰ることができました。とても貴重な時間でしたし、嬉しかったです。教員生活最後の担任は現在中学2年生の生徒たち、体育祭等含め1枚も賞状はもらえませんでした。が、とても面白く、楽しく過ごせることができました。心残りには日光のオリエンテーション合宿が中止になってしまったことです。もう一つの心残りは本来、最後の担任になるはずであった現高校3年生。昨年定年を迎える関係から

卒業まで見届けることができず残念な思いがありましたが、非常勤講師として週2日8時間中学1年生の理科の授業を担当することになり、充実しています。また、卒業式にも出席できそうです。毎日が日曜日のような日々ですが退職してから今年になって、前からしてみたかったこと、古い赤レンガの建物や塀を歩いて探し回ることです。山手線の駒込駅から田端駅に向かう右手に現在使用されていない赤レンガのトンネルが半分以上埋められているのが見えます。線路がどのように配線されているのかは全くわかりませんが、どうであつたのか、想像したり調べたりしようと思っています。遊ぶときには遊びになりきり、勉強するときには勉強になります。『そのものになりきる心』大切だと思います。

65歳の定年まで勤められたことは決して自分ひとりの力ではなく、多くの人々の支えがあつたおかげです。ありがとうございます。

私は本年3月をもって獨協埼玉中高を退職しました。本校開校とともに勤務しましたので、32年間勤めたことになりました。

身元は丈夫で、大きな病気をすることもなく勤めることができました。この間、嬉しいこと、楽しいことがたくさんありましたが、時には問題にぶつかり、自分は教師に向いていないのではないかと悩んだこともありましたが、それらを乗り越え、なんとか無事に務めることができたのは、その時々、生徒諸君、保護者の皆様、そして教職員の方々の支えがあつたからこそと感謝しています。

在職中のべ25年間クラス担任を受け持ちました。クラス担任というのは、クラスが上手にいくと生徒のおかげ、上手く



(左)井原先生、(右)国府田先生

いかないと自分のせいと思うもので、悩みは尽きないものです。しかし、担任を持っていない年は、文化祭や体育祭、合唱祭などの行事の時は、手持ち無沙汰で、寂しい思いをしました。私は、人を動かすのは苦手で、行事では、クラス生徒たちと一緒になって、ああでもない、こうでもない取り組んできましたが、それらの取り組みは私にとってかけがえのない思い出になっています。

部活動はいろいろな部の顧問を経験しましたが、正顧問で、年数も長かったのは自転車部です。開校してすぐに創部し、しばらくはツーリング主体の活動でした。私自身自転車が好きだったので、一緒に色々な所に行きまわりました。特に、夏休みの合宿は、3泊ぐらいで600Km以上走りました。学校から小諸の日新寮を経て長野、戸隠、松本、諏訪湖まで走った信州ツーリング、新潟から日本海沿岸を北上し、十和田から八戸へとぬけた東北ツーリング、富山から能登半島を回り、輪島、福井、若狭から京都まで行った北陸ツーリングなど、皆、真っ黒に日焼けして走りました。自転車部はその後、ピスト・ロードレースなど競技中心の活動になりましたが、部員が減り、練習環境の悪化などもあり廃部となったことは残念です。その後、中学校ができてからは中学テニス部の顧問を務めてきました。テニスは好きなのですが、指導力があるわけでもないので、とにかくコートで部員と練習をしてきました。2年前に、女子団体戦で関東大会に出場できたことは素晴らしい思い出です。これまでお世話になった皆様にきちんとしたごあいさつもできぬまま退職してしまいました。最後にこの場をお借りして御礼させていただきます。ありがとうございました。

退職教員に向けて

惜別 先生へ

同窓生の皆さん、お越しのこと存じます。何かと厳しい昨今の社会状況ではあります。益々の活躍をお祈り申し上げます。

早いもので、獨玉も創設から三十二年の時間が流れました。光陰矢の如しの感慨に耽る毎日です。あの頃に赴任した所謂「団塊の世代」の先生方を中心に大きく顔ぶれも変わり、当時のことを考えると実に隔世の感を禁じ得ません。私もこの三月には現職を退きます。

振り返れば、国府田先生との付き合いは今年から四十余年前、お互い新人教師として前任教で出会った時に始まります。当時は「いざなぎ景気」と呼ばれる好景気も終息に向かい、大卒の初任給が確か四万円、台前半だったでしょう。か。「人類の進歩と調和」をテーマに「大阪万博」が実施され、翌年の六月には「沖縄返還」が実現し、書店には「二十歳の原点」なる手記が並んでいました。そんな昭和46年4月、我々は教師としての第一歩を踏み出しました。

その後、前任校での多忙かつ貴重な十年間を経て、縁あって創設間もない本校にお世話になりました。現在があります。当時教頭代行職にあられた先生との邂逅は単に教師としてのみならず人間としての見聞を広める機会ともなり、

先生を始めとする諸先生方との新しい場での再出発には身の引き締まる思いを感じたことを鮮明に覚えています。

先生と私は採用年度が一年前後しますが、再び同じ場で教壇に立つことになった時は、運命的な絆の強さを痛感しました。以来、二人の人間として教諭として、加えて阿吽の呼吸の分かる同志としてこれまでの時間を

共有して来ました。長きに渡り学年主任として活躍された先生を一言で申すならば、まめ(忠実)で几帳面、思慮深く、義理と人情に厚い寛容の人です。ご家庭におかれては良き父親であり、奥様の内助の功にさりげなく気遣いができる良き夫であることは勿論のことです。また、食通でもあり、特に日本酒の味に拘り、隠れた名店を食べ歩くこと等々、何より私にとって気が置けない友、これがご本人そのものです。

それにしても三十代はまあ懲りずに毎日のように亡くなられた先生や現校長の談論風発、吼えまくったことが、未熟が故の身の程知らずの方言の数々、それだけ語らずにはいられない話題があったのでしよう。決まって厚焼卵を肴として注文すること、飲んだ後に甘いものを食べる等、あの頃のご本人の癖を懐かしく思い出します。

数多くの思い出の中、特に「10年後の手紙」と称する企画は印象深く残っています。卒業していく生徒が、想定される十年後の自分にエールを送る手紙を書き残し、約束の年に送るといふもの。その時になると投函する手紙、一通の住所を確認し、切手を貼っている姿は忘れられませんが、担任として生徒との出会いを大切に、「一人一人の行く末を案じる先生ならではのものと感心するばかりでした。事実、思いがけず手にした高校時代の手紙に勇気づけられたという卒業生が何人もいます。生徒に対するこうした思いやりは貫いており、その人柄故に慕われ信頼されていることは衆目の致するところです。教師を天職としてその大航海を立派にやり終えた今、心からお疲れ様と申し上げます。決して

順風満帆な日々ばかりではなかったかと存じますが、忍耐強く全力で走って来られた姿に大きな感動を覚えます。これからもご健康には呉々も留意され、益々お元気で過ごして下さい。

教諭

井原先生の退職にあたって

私は縁あって、高校2年生の時に先生に担任をしていただきました。当時の獨協生は自由奔放そのものという感じの生徒が多く、今から思えばクラス経営はかなり大変だったと思います。さらにそのクラスには学年の問題児といわれていたラグビー部が5人もいるクラスでした。その仲間たちは、好き勝手な生活をして先生に迷惑をかけることもたくさんありました。それでも先生は大きな声で怒鳴ることも無く、我々の言い分を聞きながら聞いてくださっていた記憶が残っています。そしていざという場面では体を張り、退学になりそうな仲間を救ってくださった記憶があります。

そして、幸甚なことに獨協埼玉で先生と一緒に働かせていただくことになり、最後の1年を同じ学年を担当する教員として過ごさせていただきました。私の中で教師の理想像には先生の存在が大きく影響しています。そして、これからも先生が多くを語らずに教えてくださることを、人として、教師として受け継いでいくことが私の使命だと思っています。先生、本当にありがとうございました。

13期生 獨協埼玉中学高等学校

教諭

H23.10.24 逝去

先生を 偲んで

先生の葬儀にはたくさんの方の先生が弔問に訪れていました。葬儀に参列していた卒業生の深い悲しみの様子を見ていると、生前先生がどれだけ獨協埼玉に尽力され、その優しさで私たち同窓生を包んでくれていたのかということを感じました。今回は正木先生を偲んで、親交の深かった方々に「寄稿いただきました」先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

16期

先生と初めてお会いしたのは、昭和57年4月で私が専任が決まり保健室にご挨拶に伺ったときでした。とても気軽に話しかけていただき、緊張していた心がほぐれたことを覚えています。それ以来保健委員会や生徒の怪我でお世話になり、お話をする機会が多くなりました。もともと私は専任になったときに恩師から「保健室は学校の縮図のような所、担任をもつた二日一回必ず顔を出しなさい。」と言われていたこともあり、心がけて保健室へ出向いていました。保健室に来る生徒はいろいろで、中には薬を欲しがる生徒、ベッドで休養を要求する生徒、授業へ行きたくない生徒、友達と喧嘩して心がおさまらない生徒など様々でそんな生徒に先生は時には厳しく、時には甘えさせてと柔軟に対応されていました。私とは意見が大きく異なるときもあり幾度か口論になったこともありましたが、その後の気まずい思いも正木先生の一言「お茶でも飲まない」でいつもかき消されました。そんな人柄は講師の先生へも向けられ、一緒に昼食をとったり、お茶を飲んだり、悩みを話したりといつも心配りをされていました。その存在は獨協埼玉の母のような大きな方でした。

最後にお話ししたときには大きな声で「まだ、生きているわよ」と笑顔で答えられ、今建築中の新居でお正月を迎えることを楽しみにされていた先生でした。お疲れさまでした。30年間支えていただき有難うございました。

平成23年10月24日ご長男から連絡をいただき先生が逝去されたことを知りました。大きな悲しみと寂しさが胸が締めつけられるような思いと共に、これまで先生と過ごしてきた3年半の思い出が頭に浮かんでくるばかりでした。

私は平成20年度に獨協埼玉に赴任し先生と出会い保健室で一緒に仕事をさせて頂いていました。私は赴任前まで看護師として仕事をしていたため、養護教諭という学校現場での仕事は初めてで、右も左も分からない状態からのスタートでした。先生はそんな私を快く迎えてくださり、生徒との関わり方や状況判断の方法など、様々なことを指導してくださいました。また、未熟な私の意見にも耳を傾けて一緒に考えてくれ、見守りながらも困った時には手をさしのべて下さる頼もしい先生であり、私にとって母親のような存在でした。生徒の心と身体にケアに熱心に取り組まれさらに教職員の健康にも気遣われ先生は、今でも脳裏に浮かび上がります。そんな先生を、私と同様、母親のように慕う生徒や先生方が多くいたように感じます。人と人との繋がりを大事にされていた先生の周りには、自ずと人が集まっていたように思います。先生の心の温かさがたくさんの人を癒していたからだと思います。

あともう少しだけ先生の背中をみて一緒に仕事をしたかったです。もっと聞きたいことも相談したいこともたくさんあったのに、もう先生とお話が出来ないことが寂しくてたまいません。先生と過ごした3年半でいただいた財産を生かして、今後も一生懸命務めていきたいと思っています。これまで本当にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

いつも元気に仕事をなさっていた先生は最後まで先生らしく、しっかり病と向き合い、私たちにたくさんさんの思い出を残して十月末に天国へ旅立たれました。

保健室で先生は私たち女性教員の母のような存在でした。私たちの疲れた様子を見ると、包容力のある言葉でさりげなく励ましてくださり、私たちは先生の的確なアドバイスにすいぶん助けられました。養護の仕事がらか、周りの人の健康には注意を払っていたのに、ご自身のことはいつも後回しにしていました。見ていて体調が危ぶまれた頃でも弱音を吐かずギリギリまで気丈に仕事をこなされていて、こちらの心配にはいつも「大丈夫！ 私は大丈夫だから」と応えて、それが口癖になっていました。

十年以上も前のことですが、縁あって一緒にイギリスとスイスに旅したことがあります。屈託がなく話題が豊富な方でしたから、旅の間中、笑いが絶えなかったことや、旅の途中でよく忘れ物をしたのは悔やんでも仕方ない」とさささあきらめ、率先して旅を楽しんでいたことが思い出されます。

先生が65歳という年齢で、この世を旅立つしまった現実を、しばらくは落胆し、悔しい悲しい時間を過ごしました。でも正木先生との会話や思い出を辿るうちに、前向きだった先生が「私は楽しかったのよ、満足してる」と言っているように思えてきました。先生は中味の濃い人生を送られたのだと思います。先生から教わった数々のことをしっかりと受け止めて、先生と出会えたことに感謝しつつご冥福を祈りたいと思います。

第15回 同窓会総会・懇親会開催

決算・予算報告

平成23年度 同窓会決算書

H23年4月1日 H～24年3月31日

収入の部

前年度繰越金	20,112,057
終身会費卒業生	3,220,000
終身会費既卒生	610,000
利息	1,897
総会・懇親会会費	60,000
祝い金	0
雑収入	1,000

合計 24,004,954

支出の部

31期生 終身会費	3,090,000
H23年度より繰越金	21,653,078
預金利息	1,800
懇親会収入	60,000

合計 24,004,954

平成24年度 同窓会予算

収入の部

次年度繰越金	21,653,078
総会・懇親会費用	580,391
会報費	1,339,662
幹事会費	10,000
慶弔費(花束)	31,650
事務費	2,423
HP関連	24,900
卒業証書フォルダー	362,850

合計 24,804,878

支出の部

総会費	600,000
会報費	1,360,000
幹事会費	20,000
慶弔費(花束)	30,000
卒業アルバム保管用	13,800
企画費	500,000
卒業証書入れ	400,000
HP関連	25,000
予備費	21,856,078

合計 24,804,878

また、その後の懇親会では井原先生、太田先生、小栗先生、加倉井先生、紀内先生、国府田先生、新宮先生と多くの先生方に参加していただき、同窓生はより感慨深い昔話に花を咲かせていました。近年、中学生や高校生の

今年も暑い中、6月23日(土)に第15回同窓会・懇親会が開催されました。総会では昨年度より議題にあがっていました会則の変更についての提案があり、承認されました。大きな変更点は、①「会長・副会長の選任方法」②「幹事会・理事会の運営について」などです。新会則はホームページに掲載しておりますので、同窓会ホームページをご確認ください。



お子様を持つ卒業生も増えておりますので、学校見学と兼ねてぜひ総会と懇親会にご参加ください。

「部活動紹介」

第13回 男子バレー部

卒業生の皆さんこんにちは。今回部活動紹介ということで、我が男子バレーボール部の最近の状況を紹介します。

平成17年の夏から第二体育館での本格的な活動が許可され、恵まれた環境の中、新キャプテンの田中君を中心に毎日体育館にて練習してきました。当時は内進外進共部員数も多く、練習量も多くまた対外試合も栃木遠征をはじめ数多くこなしていました。その成果が公式戦にも現れて、連続して県大会出場及び2度目の関東私学大会にも出場することができました。ただ残念なことに、ストイックなまでの練習のためか新入部員(特に内進生)の多くが退部する事態が生じてしまいました。

次の平成18年は、3年生が引退後新キャプテンの[]を中心に初心者中心でしたが猛練習によって、引き続き県大会および関東私学大会には出場は

していません。

男子バレー界不人気およびきつい部活との噂?のためか、部員数の減少に歯止めがかからず、次年度の[]

キャプテン以降各学年部員2名の時代へと突入していきます。

合同チームの参加が許可され、本校も[]の代り、久喜工業高校、草加東高校&八潮との合同チームで公式戦参戦。

[]キャプテンおよび昨年度の[]キャプテンの時代は、春日部工業高校や杉戸農業高校との合同チームでの公式戦参戦が続きました。本校での練習は週2〜3回程度、祝日を含め他は合同練習会場としてよく春日部工業高校さんにお世話になりました。部員達の負担は大きかったと思いますが、皆バレーが大好きで熱心に活動しておりました。合同チームで交流を深めた他校の部員達とは今でも交流があり、今年3月の卒業式の際は杉戸農業高校の部員がお祝いに駆けつけてくれた微笑ましく思いました。母校のみならず、他校生にまでバレーボールを通じた絆の輪が広がっていることを大変誇りに思います。

昨年度の新人部委員は久しぶりに15名を超え、キャプテン[]の内進生で初心者あがり、単独で活気ある活動が再開できました。その成果がなかなか現れなかったのですが、1年生大会ベスト8および今年のインターハイ東部地区代表決定戦において、4年ぶりに地区ブロック優勝し県大会へと駒を進めることができました。

現在、新キャプテンの[]を中心に、2年生10名+1年生2名の12名で夏の越谷大会優勝、秋の大会以降県常連校として、更には県ベスト8を目指して猛練習中です。私も東部地区の顧問としては2番目の長老になってしまいました。お陰で練習試合の申し込みで苦勞することはありません(笑)。OBの皆さん応援よろしくをお願いします。

(顧問 [])



2005年に建てられた第2体育館での練習風景





成人式も終え、卒業して2年が経とうとしている去る

まほろばの会 28期

報告



2012年2月18日、獨協埼玉高校同窓会の協力のもと、卒業期の幹事が中心になって運営している「まほろばの会」が、高校の食堂をお借りして、行われました。たまたま2年ぶりの再会ですが、久しぶりに会う旧友達は、どこか大人っぽくなっていました。けれど話し出してしまえば高校時代と変わらな、先生方も含め、みんなワイワイと近況報告、高校時代のクラスのこと、部活のこの話に花を咲かせ、あつという間の2時間でした。

全く力のない幹事長でしたが、たくさんの方に協力して頂き、28期らしい会にすることができました。二次会も大変盛り上がり、今後も定期的に同窓会を行いたいと考えています。当日、参加していただいた先生方、会の準備段階から当日の運営まで行ってくれた28期同窓会幹事達、あわせて、お知らせ手紙の発送、準備に協力してくれた先生、当日の買い出しなどに協力してくれた先生にこの場を借りて御礼申し上げます。

窓会を行いたいと考えています。当日、参加していただいた先生方、会の準備段階から当日の運営まで行ってくれた28期同窓会幹事達、あわせて、お知らせ手紙の発送、準備に協力してくれた先生、当日の買い出しなどに協力してくれた先生にこの場を借りて御礼申し上げます。

幹事

案内 29期生「まほろばの会」開催について

2013年2月23日(土)午後

29期生「まほろばの会」を本校にて開催します。みんなの20歳を学年主任であつた百済先生をはじめ、担任をしてくださった先生方と祝う会でもありますので、29期生の多くが参加してくれることを願っています。

教育実習を終えて

緊張と不安から始まった三週間は、あつという間に過ぎ去っていました。今回、中学二年生のクラスを持ち、生徒と過ごす中で、人に伝えることの大切さや難しさを痛感しました。

今回の実習では自分の思う通りにいかないことが多く、悩んだこともありました。先生と呼んで慕ってくれる生徒の笑顔があつたからこそ、最後までやり遂げることができたのだと思います。生徒達、そして多くのご指導をしてくださった先生方に本当に感謝しています。三週間という長い間、本当にありがとうございました。

教育実習を終え三週間が経とうとしています。緊張と不安から始まった三週間は、あつという間に過ぎ去っていました。今回、中学二年生のクラスを持ち、生徒と過ごす中で、人に伝えることの大切さや難しさを痛感しました。

教育実習を終え三週間が経とうとしています。緊張と不安から始まった三週間は、あつという間に過ぎ去っていました。今回、中学二年生のクラスを持ち、生徒と過ごす中で、人に伝えることの大切さや難しさを痛感しました。

教育実習を終えてあつという間に過ぎていた印象がある一方で、普段の大学では決して経験することの出来ない濃密な三週間を過ごすことが出来ました。私が考えていた以上に、生徒に何かを伝えるのが難しいということを感じ、授業の準備で睡眠が取れない日もありました。そんなとき、指導教諭の先生や学生時代から私のことを知っている先生方に助けていただき、なにより生徒からたが出来る、本当に素晴らしい実習になったと思います。この場をお借りして、

卒業後久しぶりに訪れた獨協埼玉中学校は、変らぬ雰囲気、懐かしい気持ちになりました。また、実習中は様々な先生方にアドバイスをいただき、大変実りあるものとなりました。実習を終えた今はさびしい気持ちでいっぱいです。普段、人前に立つて話すという事は積極的にはしないものですから、自分では教師に向いていないのではないかと考えていましたが、多くの生徒と接することによって、どこか教師になつてあの場にもう一度立ちたいという思いの方が強くなる実習でした。



INFORMATION

第33回 蛙鳴祭

9月29日^土・30日^日

10:00~15:00

今年度の蛙鳴祭テーマは「Colorful」です。高校3年4組から提案され、生徒たちの「クラス・部活動など、さまざまな団体が色とりどりの催しで蛙鳴祭を盛り上げて欲しい」という思いが込められたテーマです。

蛙鳴祭ステージ タイムテーブル

第一体育館	9月29日 ^土	9月30日 ^日
10:05~11:00	高校演劇部	
11:15~11:45	中学演劇部	
11:50~12:20	マクベス(高校3年1組)	
12:25~13:55	ソングリーディング部	
12:55~13:55	コーラス部	
13:55~15:25	吹奏楽部	

入試ミニ説明会

中学 9月29日^土 13:00~14:00

高校 9月30日^日 13:00~14:00

中学入試

◆募集 男女 160 名

◆学校説明会

第1回 10月22日^土(祝) 10:00~

第2回 10月28日^日 10:00~

第3回 11月25日^日 10:00~

第4回 12月16日^日 10:00~

◆入試 第一回 1月12日^土

第二回 1月18日^金

第三回 2月2日^土

※第三回入試は本校と川口会場で実施します。

高校入試

◆募集 男女 160 名

◆学校説明会

第1回 9月22日^土(祝)

14:00~

第2回 10月28日^日

14:00~

第3回 11月25日^日

14:00~

◆入試 第一回 1月22日^土

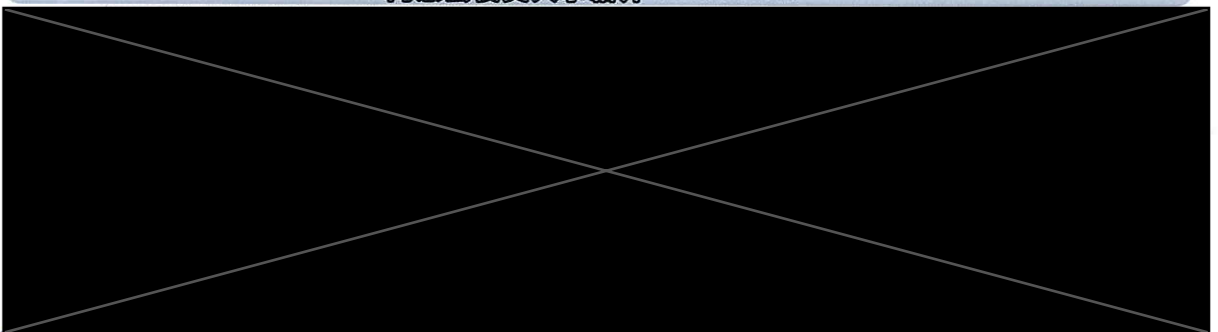
第二回 1月23日^日

※詳細は本校HPでご確認ください。

入試



同窓会役員人事紹介 (括弧内数字は卒業期)



同窓会からのお願い

①同窓会運営に関するご意見
がありましたら、上記の理
事・事務局・幹事までご連絡
ください。またできる限り、
総会に出席していただき、そ
の場で意見を寄せていただ
ければ幸いです。よろしくお
願いします。

②住所などで変更がございま
したら、獨協埼玉高等学校同
窓会までお知らせください。

③同窓会は、同窓会活動を遂行
する上で取得させていただ
いた皆様の個人情報(適切
に保護し、会報、同窓会が主
催協力する行事等の開催案
内の送付、学校で保有する卒
業生データベースの補完の
ための情報提供にこれらの
情報を利用します。

※なお、情報の提供に同意され
ない方は、事務局まで届け出
ください。

※最近、同窓会を名乗り、電話
で個人情報を出そうと
している団体があるよう
です。本同窓会では、電話での
問い合わせは一切しており
ませんので、ご注意ください。

会費納入のお願い

平成11年度の卒業生より、同窓
会会則に従い卒業年度に、終身会
費を納めていただくことになり
ました。つきましては、既に卒業
された同窓生にも終身会費(一万
円)を納入していただきたく、納
入票を同封させていただきました。
同窓会の運営資金となりま
す。趣旨をご理解の上、ご協力よ
ろしくお願いいたします。
※既にお振込みいただいた方に
は振込用紙は封入されており
ません。

獨協埼玉高校
同窓会連絡先

〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316 TEL048-977-5441 FAX048-977-2031
e-mail: dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp URL <http://www.dokkyo-saitama.com/>

8期生 ホームカミングデー報告

高校を卒業して22年。

81名もの8期生が久しぶりの母校に集まりました。

お世話になった先生方や同級生たちと当時の話に花を咲かせ、会の最初から最後まで、笑顔の絶えない2時間でした。

当日都合がつかず参加できなかった方も、またこのような会を設けた際には是非ご参加いただければ嬉しいです。

今秋開催する9期生にバトンをつなぎたいと思います。

(8期生



会計
報告

(収入)
¥2,000円×81人
＝¥162,000
計 ¥162,000

(支出)
飲食代 ¥87,648
通信費 ¥15,350
事務費 ¥8,663
お花代 ¥18,900
計 ¥130,561

(残金)
¥31,439
※残金はまほろばの会に
寄付させていただきます。

S47、S48年
生まれ

祝! 2nd成人式!

9期生ホームカミングデー開催!!

今年40歳を迎える9期生の皆さん(S47、S48年生まれ)、お待たせしました!!ホームカミングデーの開催です。20歳が大人の仲間入りの歳ならば、40歳は「本当の大人」として輝く歳!

そんな記念すべき年に母校で、懐かしい仲間やお世話になった先生方と思いに残る1日を作りませんか?? 一人でも多くの参加をお待ちしております!

日時 平成 24年 10月13日(土)

- 一次会/受付13:30 開会14:00
獨協埼玉中学高等学校
小ホール
- 二次会/18:00頃～
せんげん台駅周辺を予定
(詳細は後日ホームページでお知らせ!)



実行委員

9期生ホームカミングデー
ホームページもご覧ください!!
<http://ameblo.jp/dottama9th/>

